LIGHT HOUSE
ライトハウス
〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 1-16-13
TEL 03-3717-2711　FAX 03-3717-2721
http://www.lighthouse-jiyugaoka.jp　e-mail gospel@lighthouse-jiyugaoka.jp
郵便振替口座　00120-6-170857　みずほ銀行 渋谷支店 普通 2382850（ライトハウス）

CFI ニュースレター C2023-03 「破れを繕う者」

[今月の聖書]

「主は、常にあなたを導き、良きものをもってあなたの願いを満ちたらせ、あなたの骨を強くされる。あなたは、潤った園のように、水の絶えない泉のようになる」。（イザヤ 58：11）

あなたの子らは久しく、荒れすたれたるところを興し、あなたは代々破れた基を立て、人はあなたを「破れを繕う者」と呼び、「市街を繕って住むべき所となす者」と呼ぶようになる。（イザヤ 58：12）

「私が選ぶところの断食は、悪のなわをほどき、くびきのひもを解き、虐げられるものを放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどのことではないか。
また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これに着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。
そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれでて、あなたはすみやかに癒され、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。」（イザヤ 58：6-8）

「それ故、主は彼らを滅ぼそうと言われた。しかし主のお選びになったモーセは、破れ口で主のみ前に立ち、み怒りを引き返して、滅びを免れさせた。」（詩篇 106：23）

「主は、私たちのために命を捨ててくださった。それによって、私たちは愛ということを知った。それゆえに、私たちもまた、兄弟のために命を捨てるべきである。子達よ。私たちは、言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか」。（第一ヨハネ 3：16.18）

お元気でお過ごしでしょうか？今月は「破れを繕うもの」と題して、「真実」について考えてまいりたいと思います。今日問われているのは、私たちの祈りがどれほど熱心であるかではなく、それがいかに真実であるかということです。祈りの態度において、信仰の本質において、日々の生き方において、いかに真実であるかが問われています。私たちの心の奥底まで見抜いておられる神は、私たちが祈る前にもうすでに聞いていてくださるお方なのです。そこに天に届く祈りの本質があります。

今年取り上げております旧約聖書イザヤ書で、第一イザヤ時代（1 章～39 章）の敵は、北方アッシリア帝国でした。しかし、第二イザヤ時代（40 章～66 章）は 70 年のバビロン捕囚時代の預言です。さらに 56 章からはバビロンから解放され、祖国に帰還したイスラエル民族の信仰と生き方に関する預言ですが、最大の敵が私たちの心の内に宿っている「偽善」であることを暗示しています。そこで「安息日」「祈りの家」「断食」などの儀式的に行われてきたことについて、その本質が追求されています。

信仰生活はマンネリ化しやすいものです。形式に流れて、命をかけた純粋で真実な態度を忘れてしまうものです。そこに信仰生活の無力化、砂漠化があるのです。あなたにも「潤った園のように、水の絶えない泉のような」日々が与えられますように、祝福をお祈りいたします。

（お知らせ）

＊ウクライナ支援募金にご協力くださり、ご支援下さいましたことを心から感謝いたします。引き続き募金を継続いたしますのでお祈りください。

＊紀尾井ホールにおけるメサイア 2022 記録 DVD（4000 円）CD（2500 円）は感動的な記録になっています。ぜひお求め下さい。

最近のお手紙から

先日、私のカソリックの父(89)が、眠るように天に召されて、急遽関西に帰って参りました。

戦災孤児の父は、幼い頃に満州で終戦を迎え、帰国の混乱の中で両親と満州で生き別れたそうです。その後、神戸の教会孤児院で育てられ、大工として必死に私たち家族４人を守ってくれました。今や天国であれほど会いたかった両親と、孤児院で死別した兄との再会を果たして、地上の私たちを応援してくれているでしょう。

さて、牧師である息子の私が葬儀の司式を執り行う事となり、詩篇 23 から慰めのメッセージを、妻は賛美歌アメージンググレイスをお捧げすると、会場は主の御愛に満たされました。最後、父の亡骸の横で御霊の強い迫りを感じ、母と兄に、「主イエスを信じてやがて天国で再会しませんか？」と優しく促しました。すると二人とも、「はい信じます」と涙ながらに、しかしはっきり告白してくれて念願の洗礼を授けることが遂にできたのです。

帰宅後、母と兄は、「ほんまキリスト教には希望がある。こんなに感動する葬儀は生まれて初めてや、最高や」と泣き笑いで語ってくれたのでした。

私は信じます。苦労人の父が文字通り命懸けで母と兄を救いに導いたと。その背後で小田先生をはじめ、皆さまの祈り、誰よりキリスト・イエス様の命懸けの祈りがあったと。ただただ感謝しか御座いません。

アレルヤ。

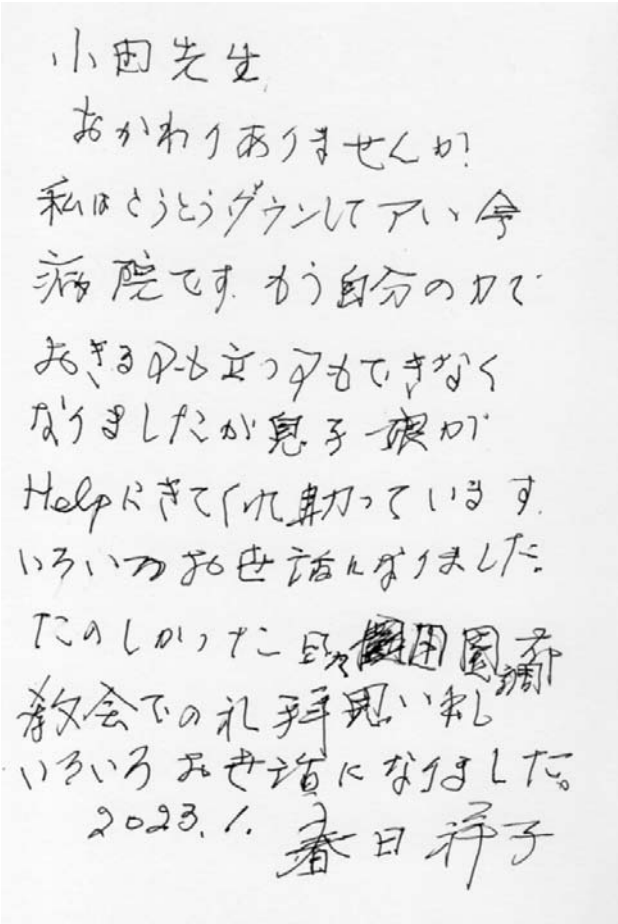
《主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。（使徒行伝 16:31 ）》

ダビデ原田恵己

2 月 13 日に、ニューヨークの春日祥子姉からカードをいただきました。たどたどしい文字で感謝の言葉が述べられておりました。（右）　春日姉は、25 年位前、ニューヨークでＣＦＩのカセットテープのリスナーが増えてきたので、事務局を作っていただき、そこでダビングして全米の多くの方に送っていただきました。日本からアメリカに渡られた多くの高齢の日本人の方が、このメッセージテープを喜んでくださり、大変広く用いられました。

長年、ニューヨークでご一緒に活動してくださった梅澤久美子姉が、2 月 9 日にお電話で、2 月 1 日に春日さんが召されたことを伝えて下さいました。その直後でしたから、ご本人から送られてきたお手紙に大変驚きました。投函日は 1 月 26 日となっています。本当に最後まで日本のことを思い出してくださり、別れの言葉を述べてくださったことを深く感謝しております。小田彰

2008 年　田園調布チャペルにて



小田先生
おかわりありませんか!
私はようやくダウンしてアい今
病院です。もう自分の力で
おきる事も立つ事もできなく
なりましたが息子一家が
Helpにきてくれ助っています。
いろいろお世話になりました
たのしかった日々田園調布
教会での礼拝思い出
いろいろお世話になりました。
2023.1.　春日祥子